

行政職員東北復興視察研修を実施しました

南海トラフ地震において津波等により甚大な被害が想定されていることから、愛南町では、発災後の備えとして、令和5年度より被害の軽減と適切かつ迅速・円滑な復興を行うために事前復興計画の策定に取り組んでいます。

今年度の取り組みとして、東日本大震災などの過去の災害からの教訓を理解し、被災自治体の復興まちづくりの先進事例を学び、愛南町における復興まちづくりの目標や目標達成の基本方針を定めていくために、10月1日(火)から3日(木)にかけて、東北復興視察研修を実施しました。

研修地：宮城県内（宮城県名取市、女川町、気仙沼市）

参加人数：10人（愛南町行政職員9人および愛媛大学防災情報研究センター客員研究員1人）

10月1日(火)

【行程】

名取市閑上公民館⇒かわまちてらす閑上⇒閑上小中学校⇒閑上中央第一団地⇒墓地公園⇒サイクルスポーツセンター⇒石巻市震災遺構「大川小学校」⇒硯上の里おがつ



▲かわまちてらす閑上



▲雄勝町防波堤

10月2日(水)

【行程】

女川町役場⇒桐ヶ崎団地⇒運動公園団地⇒大原住宅⇒女川町駅前商業エリア（女川駅・シーパルピア女川・震災遺構）⇒ウィーアーワン北上⇒ホテル観洋



▲女川町役場



▲ウィーアーワン北上

10月3日(木)

【行程】

気仙沼市魚市場周辺防波堤見学⇒南町紫神社前商店街⇒PIER7⇒鶴ヶ浦⇒赤岩港水産加工団地



▲南町紫神社前商店街



▲鶴ヶ浦

今回の研修では、実際に東日本大震災からの復興を経験した自治体職員や地元関係者から、当時の災害対応や復興まちづくり等を中心に話を聞きました。宮城県内でも、復興まちづくりの形は高台移転や現地嵩上げなど、三者三様であり、事前復興計画を作成するうえで、近い将来発生が危惧されている南海トラフ地震に備え、愛南町にとって最善のものを見極める必要があると感じました。

今後も事前復興計画の作成に取り組み、大規模災害が発生しても、また愛南町に戻りたい、そして誰もが安心して暮らすことのできる災害に強いまちづくりを目指したいと考えています。



▲女川町駅前商業エリアにて集合写真

消防本部防災対策課 電話：72-0131